

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	卒業研究		
英文授業科目名	Senior Thesis		
開講年度	2004年度	開講年次	4年次
開講学期	7, 8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	6
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	各教官		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
研究の進め方、解釈、考察やまとめかた、学問的バックグラウンドなど、広い意味で「研究とはどんなものか？」を会得するのが目標である。

【前もって履修しておくべき科目】
2年次終了審査に合格した後、更に1年以上修業していること。2年次までの全必修科目及び3年次の実験の単位を修得し、それを含めて卒業に必要な専門科目の75%以上修得していることが、卒業研究に進める条件である。ただし、1科目不足の場合は特例を設けることがある(但し110単位以上取得していること)。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
卒業研究に必要な原著論文や参考書を読むことがある。

【授業内容とその進め方】
量子・物質工学科の講師以上の研究室に配属されて、1年間、卒業研究を行う。量子・物質工学科には物理、化学、生物、運動生理学の研究室がある。また、それぞれには理論の研究室、実験の研究室がある。配属後、指導教官から研究テーマをもらい研究を進める。卒業研究を進めるにあたって、研究室の先輩からいろいろ教わることも多い。研究結果は、まとまろうと、まとまるまいとに拘わらず、2月下旬の卒業研究発表会で発表せねばならない。2月初めにA4(1枚)の発表要旨原稿を提出すること。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

卒業研究の成績評価では、研究結果よりはむしろ卒業研究にいかに関心に取り組んだかを重視する。

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

小学校以来、諸君が学校で教わってきたことは、すべて先人が作り上げた学問体系であった。しかし、実社会に出たり大学院に進学したりすると、本に書いてないこと、まだ学問的、技術的に明らかでないことに数多くでくわす。これにどのように立ちむかってゆくのかが、卒業研究を通して身をもって体験してもらう。学問的に道なき道を歩むプロセスを体験することにより、研究の楽しさ、厳しさをわかってほしい。なお、研究室の配属決定はおおむね次のプロセスで行う。12月上旬に学生に卒業研究ガイダンスを1日かけて行う。各研究室が7分程度で内容を紹介する(質問は受け付けない)。その時、配属希望研究室のアンケート用紙を配る。同じ日の夕方、学生-教官の懇親会を開く。12月中旬から下旬にかけて研究室を見学する(おおむね1研究室あたり2回程度見学のチャンスがある)。見学結果を参考にして1月上旬ころアンケートを提出してもらう。その結果を1月下旬に公開する。研究室の配属可能学生数に限度があるので、2月下旬に配属希望本調査を行い、3月中旬に配属研究室を仮決定し掲示で発表する。物理コースの学生が物質、生命情報コースの研究室を希望したり、またその逆のケースの希望も可能である。

【その他】